

時代とともに変化した ごみ処理の方法を見てみよう

ごみの量を減らすため、家庭ごみの有料化や、雑がみなどの新たな分別を開始してから、今年で10年が経過しました。そこで、今回は札幌で行われてきたごみ処理の変遷を紹介します。

1872 開拓使がごみの不法投棄を禁止

明治5(1872)年、北海道の開拓の基礎を築いた開拓使が、ごみを溝や堀に投げ捨てることを禁止した。

1873 市内初となるごみ捨て場を7カ所に設置

明治6(1873)年5月、現在の南2西5周辺や南3東2など、7カ所にごみ捨て場が初めて完成。ごみを捨てる場所は固く守るように、お触れ書きが出された。

1885 ごみの収集を開始

明治18(1885)年、市街を馬車や人力の荷車が巡回し、毎日各家庭のごみを無料で回収。毎年4月から10月までと時期は限定されていたが、ごみ収集の原型ができた。



▲馬ぶんが風で舞い上がる「馬ぶん風」は春の風物詩だった

1946 から 昭和中期以降は費用や方法が変化

- ・昭和21(1946)年 ごみ収集を初めて有料化し、手数料を年4回徴収。金額は住宅の大きさと世帯の人数に応じて決定した。
- ・昭和38(1963)年 ごみの量に応じて金額を支払う「従量制」を全市で導入。手数料の支払証書である処理券と引き換えに、ごみを収集した。
- ・昭和45(1970)年 ~46(1971)年 ごみ袋に処理券を貼り、決められた場所に出すことで、収集時の立会いを不要とするごみステーション方式を開始。
- ・昭和47(1972)年 再び無料化を実施。



▲従量制の頃には、収集車がスピーカーでメロディーを流して到着を知らせた

2005 ごみ処理場の跡地にモエレ沼公園が完成

彫刻家イサム・ノグチが「人間が傷つけた土地をアートで再生する」として設計したモエレ沼公園がオープン。270万トンの不燃ごみの層の上に、公共工事が出た土を有効利用して造った公園は、緑豊かな市民の憩いの場となっている。



▲▶モエレ沼公園の工事開始前(上)と完成後(右)



札幌の歴史

あれこれ

No.04

【ごみ処理の歴史から振り返る札幌】
今や196万人以上が暮らす街へと発展した札幌。ここでは、これまでの札幌の歩みを、さまざまな角度から見ていきます。
問い合わせ 広報課 ☎(11)2036